

ふるさと歴史アラカルト

藤岡市助と岩国

今年(明治150年)に当たると同時に、藤岡市助没後100年でもありません。今回は彼と岩国の関係について紹介します。

藤岡市助は、江戸時代末期の安政4(1857)年に岩国の武士として生まれました。明治時代に入って学校が再編され、明治4(1871)年にイギリス人教師が教える英国語学所が設けられると、そこで2年間学び、優秀な成績を修めます。岩国で学び始めた英語が、後に電気工学で大成する際に欠かせない優れた英語力の基礎を培ったといえます。

そして明治7年、市助が17歳の時、旧岩国藩主・吉川経健(つねたけ)の命で上京するという転機が訪れます。東京で市助は吉川邸に住み込みながら、工学寮(後の工部大学校)に入学し、電信学を専修します。ここで実践を通して電気に関する実用的な知識を身に付け、卒業後は母校の教員となつて、日本人による電気工学教育の先鞭(せんべん)をつけます。

市助は、教員として働きながら電気

の実用化も目指します。彼は白熱電球の国産化をはじめ、日本で初めてのエレベーターや電気鉄道の運行、そしてそれらを可能にする電力供給の実施など、明治時代における日本の電気事業の確立に大きな功績を残します。

17歳で岩国を離れた市助ですが、折を見て帰省し、岩国での電気事業の普及に貢献しています。特に明治18年には、当時まだ珍しかった電灯を義済堂(よきせいどう)でとし、研究と実験の成果を披露しています。さらに明治42年には、中国地方で初めての電気鉄道を新町(しんまち)岩国駅間(約4km)で走行させ、不便だった岩国内での移動の手段を改善しました。また在京の岩国出身者とも交流し、電気事業に関して協力したり、一緒に海外視察に出掛けたりすることもありました。

たとえ離れていても、市助が故郷である岩国を忘れることはありませんでした。没後100年に当たるこの機会に、岩国が生んだ電気事業の先駆者(せんくしや)に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※明治8(1875)年に旧武士を救済する目的で岩国に開業した会社



▶白崎八幡宮の下に停車する岩国電車

9月2日(日)まで岩国徴古館で企画展「明治150年記念 電気工学の父 藤岡市助」を開催しています。

岩国市 人口・世帯

人口 135,841人 【前月比 - 129人】 男性 64,458人 女性 71,383人

世帯 66,023世帯 【前月比 - 43世帯】 ※外国人人口を含む(平成30年7月1日現在)

交通事故発生件数 6月分事故件数 25件(155件) 死者数 1人(2人) 傷者数 28人(191人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成30年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337